

令和5年度 第4回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

I. 開催概要

1. 開催日時 2024年（令和6年）3月27日（水）
午後4時30分～午後6時30分
2. 開催場所 藤沢市役所分庁舎5階 5-1・5-2会議室

3. 出席者

- ・会場出席者
佐藤 繁、川原田 武、戸高 洋充、吉田 展章、澁谷 晴子、
道端 薫、平井 護、小林 邦芳、大島 崇弘、浅見 佳代子、
市川 勤、川村 哲、鈴木 正貴、横川 敬久、榎本 雅宏、
栃本 親、西山 千秋、坪谷 麻貴
- ・オンライン出席者
石井 由佳、秋山 美紀、市川 勤、

4. 議題等

1 開 会

2 議 題

（1）藤沢型地域包括ケアシステムの取組状況について

＜資料1＞令和5年度藤沢型地域包括ケアシステム スケジュール

＜資料2＞2025年に向けたロードマップについて

＜資料3＞地域を中心とした協議体の取組について

＜資料4＞今年度の藤沢市重層的支援体制整備事業の年度報告

（2）委員の取組・情報交換について

＜資料5＞藤沢型地域包括ケアシステム推進会議の展開及び委員と連携した取組

＜資料6＞今回提出があった情報交換シート

＜参 考＞前回の取組・情報交換シート

※委員同士の情報共有・意見交換

＜資料7＞来年度の広報について

(2) その他

＜資料 8＞委員任期の終了と次期について

＜資料 9＞来年度の会議開催予定について

＜資料 10＞地域福祉計画 2026＜中間見直し＞策定について（当日資料）

3 閉 会

II. 会議の概要（議事要旨）

1 開会

地域共生社会推進室玉井室長の司会進行のもと、事務局から欠席・遅参委員及び資料確認等をし、その後、小林代表の挨拶を受け、議事に入った。

2 議題

議題（1）藤沢型地域包括ケアシステム 分科会等の取組状況について

「資料 1～4 にもとづいて、事務局より説明」

○大野委員

重層的支援会議と支援会議についてもう一度教えてほしいです。

○事務局

同意が得られない状況でも関係機関で情報交換をしなければならないケースを適切な支援につなぐことができない状況はこれまでもあったことが考えられます。個人情報等の壁によって関係機関のケースを話し合うことが難しかったこともあったと思いますので、支援会議にかけることで守秘義務のうえで関係者が適切な支援を行うために、どうしたら良いかを早期のうちに話し合う必要性があるときに支援会議が活用されると考えられております。

○大野委員

同意を得られないケースはこれからも今後多いように感じますがいかがでしょうか。

○事務局

複合的かつまだ支援に繋がっていないケースをどうすれば良いかという課題はこれまでもあったと思いますし、増加していくと考えられます。そういった状況を加味して、重層的支援体制整備事業実施計画が整備する必要があったと思っております。複合的な困りごとが地域で増加する恐れがあるので、それを解決するための一つの手段として、この支援会議を活用することがすごく大事だと思っています。

議題（２）委員の取組・情報交換について

「資料５にもとづいて、事務局より説明」

○小林代表

資料記載の関連機関から追加情報を頂いてもよろしいでしょうか。

○大島委員

薬剤師会では、気軽に薬局や薬剤師にご相談いただきたいと考えており、なるべく地域活動に参加し、地域の方々と関係性を築く活動をしております。資料記載のように、人生会議等で薬剤師の活動を含めて啓発活動等をしております。

また、薬学部学生の薬局実習を定期的にしており、その学生にも声かけし、参加をしてもらっております。今後も、引き続き協力をしたいと思っております。

○浅見委員

見守りネットワーク会議についてですが、長後で見守りをしている方から活動を発表してもらい、見守りについて関係団体方々と意見交換を実施しました。

発表として郵便局長さんに来ていただき、詐欺被害のリアルな話をしてもらい、意見交換の中では見守りって大事だよねっていうことが共有でき、有意義な会議になったと思います。

○西山委員

日頃更生保護に関する活動をしており、藤沢市地域福祉計画内にも更生保護に関する記載がございます。藤沢市では、社会を明るくする運動を推進委員長が市長とし、関係する団体の下に活動をしております。今年度は、ひまわりの種を本庁舎の裏にある広場に植える等、活動を行いました。少しずつ更生保護に関する理解を定着していけたら良いなと思っております。

○小林代表

皆様、ご発言ありがとうございます。他になければ、資料６の意見シートについて、委員毎にご説明をお願いします。

「資料６ 意見シートを基に、川村委員より説明」

○吉田委員

日頃障がいの方やその家族の相談支援をしていますが、やはり障がいや病気によって地域で孤立してしまう方が非常に多いと思っております。コロナ前は施設や事業所でお祭りを実施したり、地域の方とイベントをしたり、コロナにより途絶えてしまい、地域が希薄になってしまった状況をすごく憂いでおり、我々が声をかけるように川村委員のような地域の方からの声があって、そこに参加させていただくことは本当に貴重な体験になったと思います。地域の声は本当に大きいため、僕らがやろうよっていったところに参加するよりは、逆に声かけていただいて参加する方が僕は本当に良い機会になったと思います。今後も、ぜひ協力できればと思いますので、活動の際はお声かけください。

「資料6 意見シートを基に、澁谷委員より説明」

○横川委員

防災についてですが、過去には被災地へボランティアや被災地の方々から話を聞いてきた中で、もちろん防災についてみんなで考えることは大事ですが、同時に障がいの方から伺った話になりますが、車の中で過ごさざるを得なかったことがあったようです。何で起きてしまったかを考えると、障がいのある人への対応を避難した人も慣れていないことが原因の一つと考えられるので、例えば、各学校の防災訓練に福祉養護学校とかと一緒に実施することで、小さい頃からお互いがそういうところで接点を持ったりし、そのあと意見交換ができると良いのかなと思います。小さい頃から色々なことを経験させてあげることができるよ良いのではないかなと思います。

○大野委員

孤独死の心配を地域ですております。ただ、地域で孤立している人に介入しづらい現状が地域でもあるため、そういった方々に対してできることが何かあるのか聞いてみたいのですがいかがでしょうか。

○道端委員

一人住まいの人は基本、緊急連絡先がある。何かあったら基本はその連絡先に連絡しています。新聞がたまっていないか等の見守りをしております。

○事務局

先ほど、どこに連絡したら良いかというご意見でしたが、民生委員や、高齢者であれば、各地区のいきいきサポートセンターに連絡していただくのも結構ですし、高齢者支援課に連絡をしていただければ、訪問をさせていただくことがございます。出かけていることが多いですが、時には亡くなってしまっている場合もあります。いずれにしても民生委員や、いきいきサポートセンター、高齢者支援課等に連絡をしていただければと思います。

○浅見委員

新聞がポストに溜まっているという理由から新聞屋さんや地域の方から電話が来たことに伴い、いきいきサポートセンターは行くことになっております。我々は、65歳以上の高齢者の方が対象の支援センターです。

いきいきサポートセンターの職員も常に現場にて孤立している人がいないか見ているわけではないので、地域からのそういった声はとても助かっております。

○小林代表

他にご意見がなければ、続いての情報交換シートに入りたいと思います。

「資料6 意見シートを基に、浅見委員より説明」

○市川委員

近所の人から、あそこの家は最近明かりもついてないし、おかしいと情報共有をいただき、年齢が高く独居者でしたので、いきいきサポートセンターが把握していると思い、連絡したら既に把握しており、安心したことがありました。それ以外の狭間の人への対応についてこういう会議体を含めて考えていくことが大事だなと思います。

また、川村さんが実施した活動について思っても中々できることではないため、非常に良い活動だと思いました。そういう方々との交流もない地域の人たちは、増えてきているように感じます。そういった現状の中で、地域住民がそういう機会を作ることが大切だと思いました。

○石井委員

藤沢市には認知症初期集中支援チームがあり、認知症で様々な困りごとがあった場合に高齢者支援課や、いきいきサポートセンターなどにご相談いただきますと、認知症初期集中支援チームに話がいき、医師や看護師、保健師、事務等を含めた様々な職種の方々が一つの事例についてサポートしていくシステムがあるので、もし何かありましたら、ご相談いただければと思います。

○秋山委員

今回の委員会にて、現場とのギャップによる課題を共有していただいたと思います。藤沢市は相談支援と地域の縁側といった居場所事業を初めとする地域の繋がり作りに特徴があるのかなと思っていました。その相談支援と居場所は切っても切れない関係で、相互に繋げていくことが必要で、相談者に合ったアセスメントする役割をコミュニティソーシャルワーカーが実施することもあるとあれば、地域活動をしてきた住民がアセスメントすることもあるので、フォーマルとインフォーマルの両方が大事であることを改めて本日知りました。今後、更に進めていくためには様々な会議等で様々な資源についての情報やサポート方法について共有していくことが大事だなと思いました。

そして、地域包括ケアとか共生社会や、重層的支援体制等といったキーワードの違いを行政が整理し、柱を立てていると思うのですが、一般の人はその違いも含めて理解しにくいと思います。でもこの概念がどの事業に位置づけられているのかを整理し、全体像が見渡せるとすごく良いなと思いました。

○西山委員

多様化が進んでいる現状があるので、対象者毎に選択肢を与え自由に選べる仕組みや、支援を充実できると良いのではないかと思います。

○澁谷委員

地域の縁側を10年近く行っているが、来る人が固定化してしまう現状があり、様々な人に来てもらえるように様々な仕掛けを通してきっかけを作っていますが、中々難しい現状があります。地域と繋がりたい方は、本当若い人だけでなく、高齢者にも増えていると思います。ただ、繋がりたいと言っても実は繋がりたいっていう人もいると思い、仕掛けを行っております。地域団体で限界を感じながらも様々なアプローチで実施している現状でございます。

○栃本委員

澁谷委員の先ほどの防災に関する話の関連になりますが、防災訓練シートみたいなものが藤沢市の防災で持っているのですが、それはカードゲームのようになっており、避難所に色々な世代や属性の人が来る想定になっております。色々な人が来た際に避難所のどこの部屋などに入ってもらおうと、快適にスムーズに運営できるか考える形式になっています。良ければご参考にさせていただければと思います。

議題（3）その他

《資料8～10について事務局より説明》

《質疑応答なし》

3 閉会

地域共生社会推進室玉井室長のもと、挨拶をし、閉会。

以 上